香美市文芸 風の流れ

【短歌】
楠瀬 兵五郎 選

兄弟は諍ふものぢゃないぞよと二人の頭なでし祖父の掌　尾立 文
今年こそ切ると夫言うぶどう一木われも賛成良い実にならず　森本真理子
子の帰郷咲きて迎える浜木綿の白き花三つかそかに匂う　伊藤 清子
下りゆく林道のカーブほととぎすの花くっきりとライトに浮かぶ　佐々木真里
黄昏の音戸大橋振り返る裾にかたまりて瀬戸の街並　宮地 亀好
今日も雨ふきんとたわし煮沸する私好みの粉石けん入れて　古谷 由美
天狗高原の初雪広大無辺にてわがカップルも小春楽しむ　高野 和一
友は逝けり霜月の日の暖かく病めば若きもどうしようもなく　西尾 玉喜
病室の窓一ぱいに晴れし空ゆっくり流るる綿雲を追う　門田 喜美
贈られし歌集に時を忘れ読む窓に激しき晩秋の雨　岡田美代子
想い出を辿れば楽し在りなれし夫との暮したただ懐しく　中村 梅子
冬銀河吾子の歩みを見守りて幾度も季を重ね来れり　山崎 貴子
折角に立てられしうねに草は生ひ畑の主をわれは気遣う　小原 子川
何人も行かねばならぬ黄泉の国生きる空しさ過る日のあり　小松 隆之
木犀の香りかすかに漂えば苺の花芽分化する頃　小松 敏子
亡き父の植えし彼岸花白し今日も一人で来し墓の前　小野寺朱実
影山は北から霧の流れ来て寒ざむとして師走となりぬ　門脇 千代
冬の空瞬く星をながめいる星座の名など知らねど楽し　楮佐古きよ
抒情とや奇数を恋うて五・七・五心の襞の七・七となる　森本 幸美
日盛りに玉砂利ひびくお伊勢さま心のふるさと神やどる森　小松 禮子
わが里の自然公園秋に染むアサギマダラも揺れて飛び交ふ　武内 弘子
傘寿きて押し花教へる子供らに生きるよろこびもらひし一日　門田 明子
滑り終へ笑顔でポーズ決めたるも快心の演技できざると真央　公文 正子
悪いけれど私は貴方が好きではないよと言ひながら引く牛膝　高橋 章
スイッチを押せばふはりと灯がともる箱根みやげの眠り梟　竹村 咲子
手の中で爆ぜる感触に安堵する酢漿草の実を握りしめたり　大石 綏子
青空へ皇帝ダリアは抜きんでて薄紫の花を掲げる　松中 賀代
忍び寄る老の姿よ生ゴミの袋を抱えて杖をつきゆく　出原 久子
はなれ行き三十余日生還の隣り家の犬をしばしねぎらふ　古川 安子
秋晴れていつもは静かなゆず畑週末は子や孫らでにぎわう　林田 幸子
スタッフの黄門様に化け切って我ら利用者笑いのうずに　山﨑 緑
日の暮れの一刻の間を楽しむか車二台に若きらの声　竹村 稔美
チリチリとわれを呼ぶ夢の中の夫気になるごみのありて目覚めぬ　横田直加子
人生に折れ合いつけて諦めることも大事なけぢめと思ふ　法光院俊子
とどめがたき物のひとつの放射能人は怖るる影なきものに　小野川惠仁
残世を悔なきものにと心して歩むダム湖路は紅葉あざやか　谷内 務
御神木あがめて拝す伝説の歴史の深み胸和みつつ　公文 千恵
かん高くふた声み声ひよどりの連れ呼ぶ声が明け初むる窓に　吉本 悦子
震害も原発の惨も見てきしや戻り鰹の緊りたる青　大岸由起子
返り咲きを持つ友と行く宮の道思ひ出せない紅色の花　林 敏子
十年にもなりやしぬらむ天人峡ひとつ記憶の大樹桂あり　佐竹 玲子
臥る身に夜の迫りつつふと思ふ誰の白髪ぞ会釈交せしは　小松もとみ
よきことをしたと思へどなぜ虚し集まり生えし青菜を間引く　都築 初代
風の町と思ひ居着きて五十年か犬と連れ立つ寒風のなか　楠瀬兵五郎

※俳句・短歌の応募は、総務課内広報委員会事務局まで。投稿方法は自由です。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）
FAX 53－5958

図書館だより

市立図書館

新年あけましておめでとうございます

昨年も多くの方に来館していただきました。市立図書館では、皆さんが本を読む環境をより充実しようと、国から交付金をいただき館内の本、資料の整備に取り組んでいます。

また、県立図書館の物流便（相互貸借）は、一週間に2回になり、利用者の皆さんの要望に早くお応えすることができるようになりました。県内の図書館、四国の図書館からも借り受けができますのでご利用ください。

学校との連携では、調べ学習図書の要望がたくさんあり、県立図書館の相互貸借に頼っている現状でもあるので、この機会に整備していきたいと考えています。

今年も皆さんの要望にそって、よりよい図書館運営に努めますのでよろしくお願いします。

2階へ学習室ができました

本庁の落成に伴い2階の少年育成センターが本庁内に、教育研究所や教育支援センター（ふれんどルーム）が西庁舎に移りました。教育研究所、ふれんどルームあとが学習室になり、個人用机16席を備え、じっくり学習できる部屋ができ、2月中旬からご利用できます。

新着本の紹介（香北分館）

〔大人向け〕▽絶望の隣は希望です！（やなせたかし）▽からだにやさしく効くおクスリおやつ（荻田尚子）▽緋色の楽譜上・下巻（ラルフ・イーザウ）▽春告げ坂（安住洋子）

〔子ども向け〕▽北風ふいてもさむくない（あまんきみこ）▽ぞくぞく村のかぼちゃ怪人（末吉暁子）▽クラーケンの島（エヴァ・イボットソン）▽セキタン！ぶちかましてオンリー・ユー（須藤靖貴）

おすすめの1冊

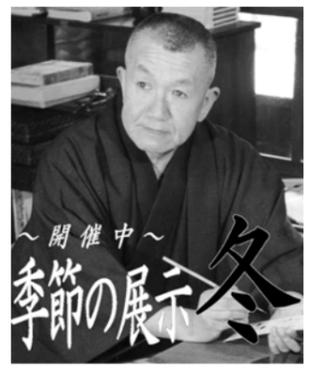
太平洋戦争の戦没者の遺児が、伊166潜水艦を沈めた英潜**テレマカス**の消息を尋ねて元艦長キング氏に面会する。また、伊166潜が撃沈したオランダ潜K－16の慰霊碑に詣でる中で、3隻の関係者に親交が始まる実話の物語。

戦闘後65年ほどを経過して、遺児が父の面影を追う心情、キング艦長の復しゅうへの危ぐ、オランダ遺児の旧友同様に迎える姿に大きな感銘を受けた。この艦には、韮生谷で育った横谷一（一等機関兵）が乗り組んでおり、記憶される1冊となった。

H生さん（香北町）

「奇蹟の出会い」
（作：鶴亀 彰）

吉井勇記念館だより

季節の展示のお知らせ

吉井勇記念館では、現在、季節の展示『冬』を開催中です。『冬』にちなんだ勇の作品を展示しております。ぜひご来館ください。

【期間】2月27日（月）まで
【問い合わせ先】吉井勇記念館☎58・2220

吉井勇作品紹介 ～冬～

大土佐の
　山に初日を
　　おろがみて
われも雄ごころ
持たむとぞおもふ

用語解説
おろがみて＝拝む。拝礼する。
雄ごころ＝勇ましい心、雄雄しい心、勇気のある心。

〔解説〕新しい年を土佐で迎え、初日の出を拝んで詠んだ一首。「雄ごころ」は勇が多用し、よく歌に詠んでいる言葉である。

京さむし
　鐘の音さへ
　　氷るやと
云ひつつ冷えし
酒をすすりぬ

〔解説〕勇は哀音を響かす鐘声を聞きながら、冷えた酒を飲んだという、心に残る冬の情景を詠んだ一首だと、後に自釈本で語っている。